

4. 将来の生活面に関する意識

Q10 家庭生活などに関してあなたはどのようにお考えですか。

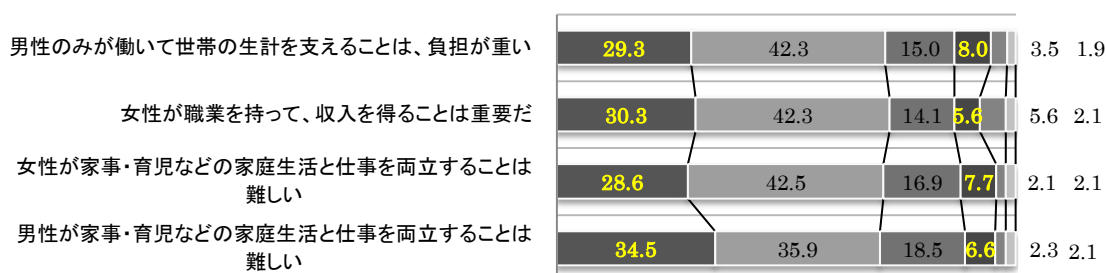
(あてはまる番号に○印)

■ どの項目も7割以上が「負担が重い」「重要」「難しい」と回答

- (1) 全体で見ると、家庭生活への考えに関して、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計で見ると、ほぼどの項目も70%以上となっている。なかでも、「そう思う」が最も多かったのは「男性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」の34.5%であった。
- (2) 男女別にみると、女性が男性より「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答が多い項目は「男性のみが働いて世帯の生計を支えることは負担が重い」で27.1ポイント、「女性が職業を持って、収入を得ることは重要だ」で22.5ポイントいずれも高い。
一方、男性が女性より「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答が多い項目は、「女性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」で、9.2ポイント高い。また、「男性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」の項目はほとんど変わらない。
- (3) 「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計の場合、男性は、男性の「仕事と家庭生活の両立」よりも、女性の「仕事と家庭生活の両立」の方が難しいと考えている割合が高い。
- (4) 「内閣府（21/3月）男女の能力発揮とライフプランニングに対する意識に関する調査」と比較すると、対象年代幅に違いはあるが、女性の場合、「男性のみが働いて世帯の生計を支えることは、負担が重い」、「女性が職業を持って、収入を得ることは重要だ」の項目は、今回調査の女性が比較調査の女性よりも圧倒的に「そう思う」割合が高い。また、「女性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」と「男性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」の項目は、今回調査の女性が比較調査の女性よりも「そう思う」割合が低い。
- (5) 一方、男性の場合、「男性のみが働いて世帯の生計を支えることは、負担が重い」、「女性が職業を持って、収入を得ることは重要だ」の項目は、今回調査が比較調査よりも「そう思う」割合が低い。また、「女性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」と「男性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」の項目は、今回調査が比較調査よりも「そう思う」割合が高く、比較結果が男性と女性では全く反対の結果となっている。

Q10 家庭生活（全体）

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない ■ わからない ■ 無記入



Q10 家庭生活（男女別）

Q10-1 男性のみが働いて世帯の生計を支えることは負担が重い

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない ■ 無記入



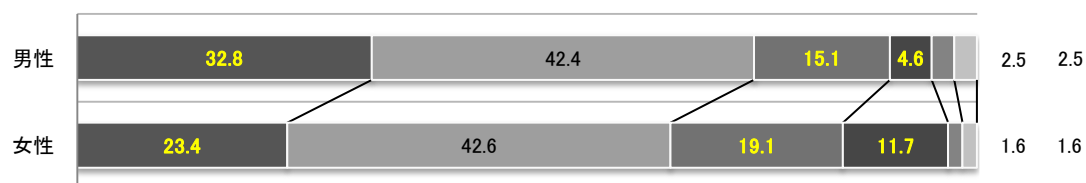
Q10-2 女性が職業を持って、収入を得ることは重要だ

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない ■ 無記入



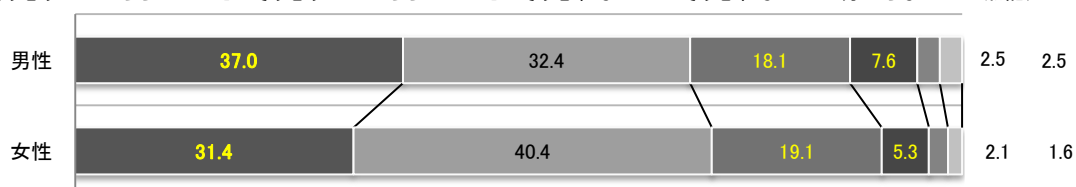
Q10-3 女性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない ■ 無記入



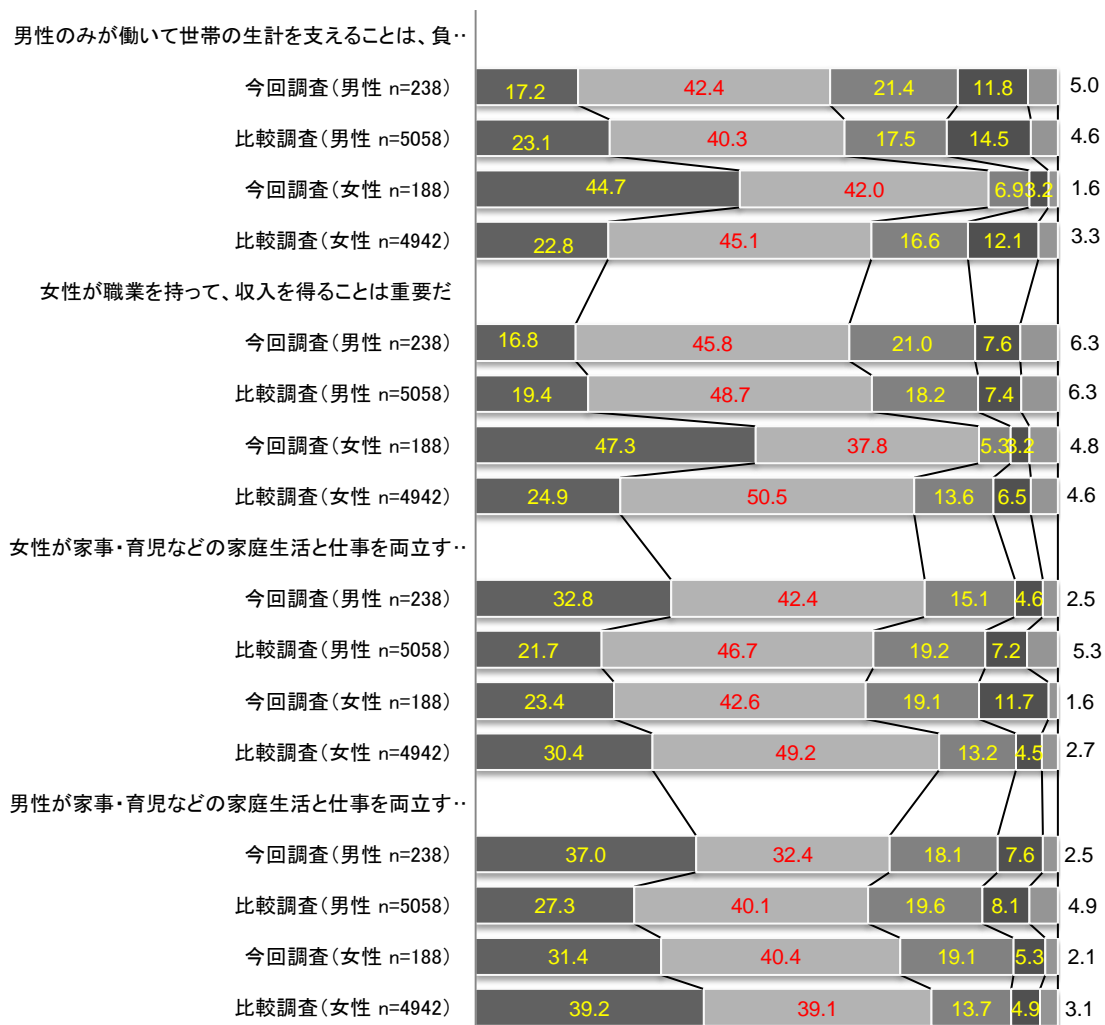
Q10-4 男性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない ■ 無記入



Q10 家庭生活（比較）

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない



「男女の能力発揮とライフプランに対する意識調査」
内閣府（H21年3月）と比較

Q11 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたが理想と考えるライフコースは、以下のどれにあたりますか。（ひとつだけ）

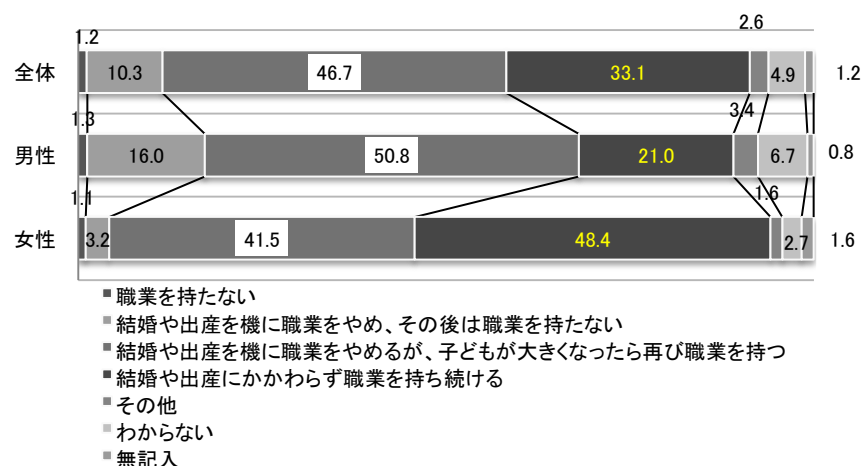
■「一時中断」が約半数、「継続的に働き続ける」も含めると8割

- (1) 全体で見ると、女性の働き方の理想は「結婚や出産を機に職業をやめるが、子どもが大きくなったら再び職業を持つ」が46.7%と最も多く、約半数を占めた。次いで、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」が33.1%であった。
- (2) これに対して、「結婚や出産を機に職業をやめ、その後は職業を持たない」は10.3%、「職業を持たない」は1.2%と少なかった。
- (3) 男女別にみると、女性は男性よりも「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」が圧倒的に多く、27ポイント以上の差がある。一方、男性が女性よりも多いのが「結婚や出産を機に職業をやめ、その後は職業を持たない」が12.8ポイント、「結婚や出産を機に職業をやめるが、子どもが大きくなったら再び職業を持つ」が9.3ポイントであった。男性は「結婚・出産退職」及び「育児中断後に再開」を理想とする割合が女性よりも高い。一方、女性は、「結婚・育児中断なしの職業生活」を理想とする割合が高く、意識に大きな差がある。
- (4) 「内閣府（21/3月）男女の能力発揮とライフプランニングに対する意識に関する調査」と比較すると、対象年代幅の違いはあるが、「結婚や出産を機に職業をやめ、その後は職業を持たない」の項目を男性のみで比較すると、比較調査は5.7%に対し、今回調査は16.0%とほぼ3倍である。一方、女性で比較すると、今回調査の女性が比較調査の女性よりも「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」を理想とする割合が高い。
- (5) 「平成21年度青森県男女共同参画に関する意識調査」との比較で見ると、対象年代幅の違いはあるがあるにもかかわらず、あまり変わらない。

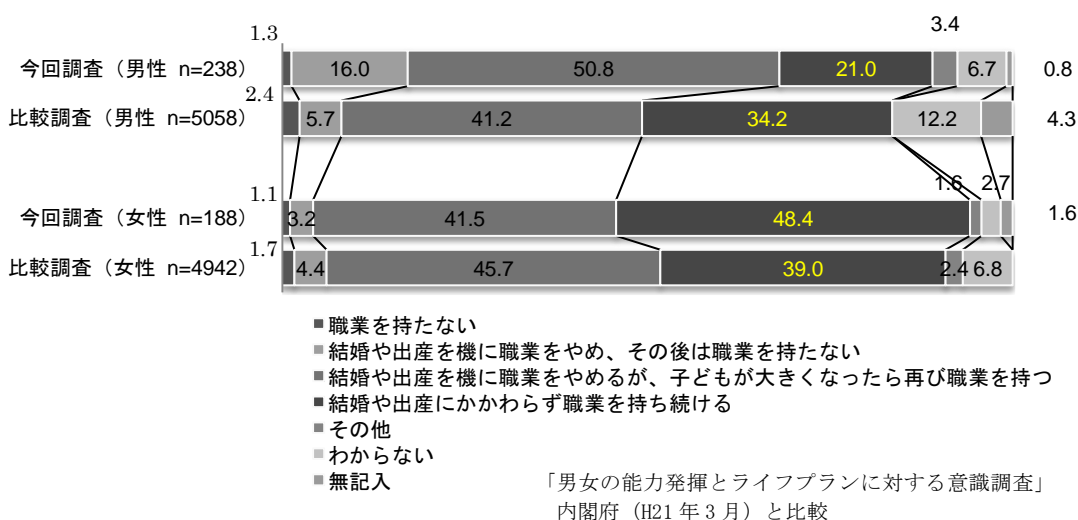
比較調査の20代男性と今回調査の男性を比べると、ほぼ同じ傾向にある。

一方、比較調査の20代女性と今回調査の女性を比較すると、「結婚・出産退職」（比較8.3%・今回調査3.2%）、「育児中断後に再開」（比較52.6%・今回調査41.5%）、「結婚・育児中断なしの職業生活」（比較33.5%・今回調査48.4%）と、今回調査の女性は比較調査の女性よりも「仕事継続」志向が高いことが伺える。

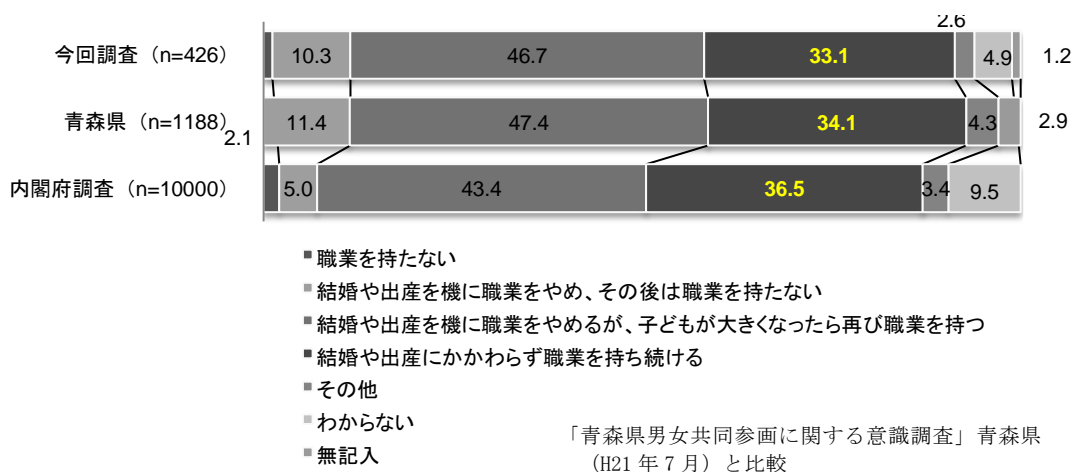
Q11 理想の女性の働き方（全体&男女別）



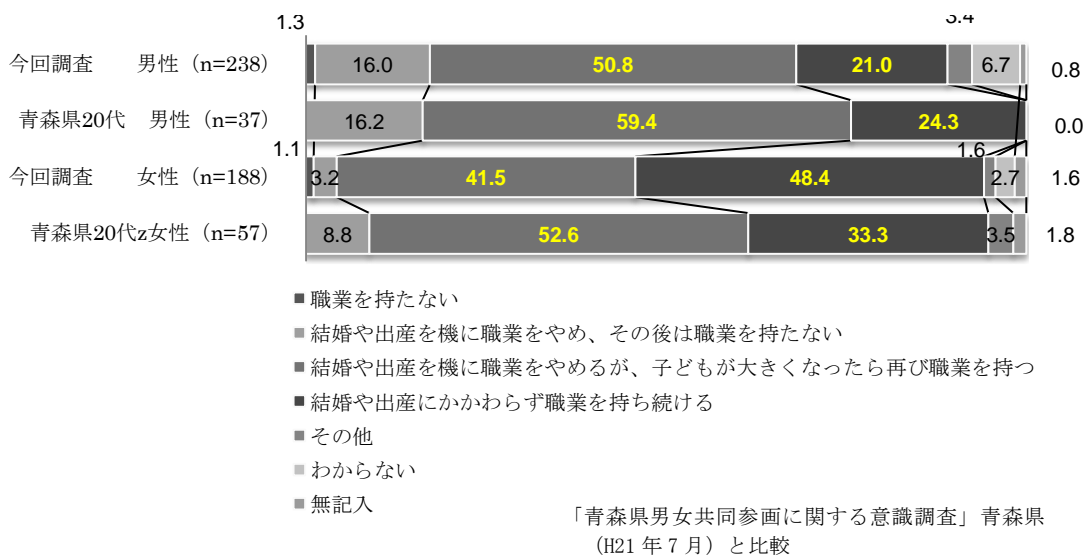
Q11 理想の女性の働き方（内閣府調査との比較）



Q11 理想の女性の働き方（青森県調査、内閣府との比較）



Q11 理想の女性の働き方（青森県20代男女との比較）



家庭生活の考え方(Q10)と理想の女性の働き方(Q11)を比較

*（そう思う計）は「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」を選択した人の合計

*（そう思わない計）は「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」を選択した人の合計

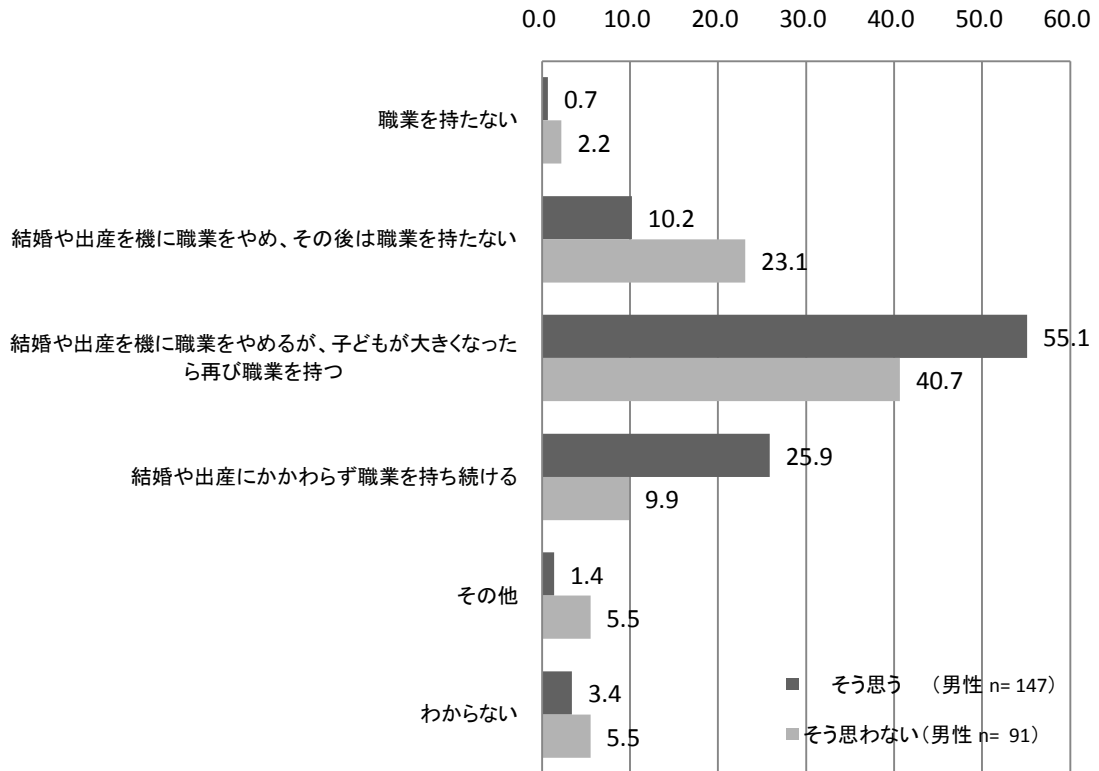
◆男性について

- (1) 家庭生活の考え方別に理想とする女性の働き方をみると、「男性のみが働いて世帯の生計を支えることは、負担が重い」について（そう思う計）を選択した人では、（そう思わない計）を選択した人よりも、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」を理想とする女性の働き方を選択する割合が、16%高くなっている。
- (2) 「女性が職業を持って、収入を得ることは重要だ」については、（そう思う計）で、（そう思わない計）よりも、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」を理想とする女性の働き方を選択する割合が、約20%高くなっている。
- (3) 「女性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」については、（そう思う計）で、（そう思わない計）よりも、「結婚や出産を機に職業をやめるが、子どもが大きくなったら再び職業を持つ」を選択する割合が、8%高く、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」を選択する割合も約2%高くなっている。
- (4) 「男性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」については、（そう思う計）で、（そう思わない計）よりも、理想とする女性の働き方として「結婚や出産を機に職業をやめるが、子どもが大きくなったら再び職業を持つ」を選択する割合が、約2%低く、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」を選択する割合が約6%高くなっている。

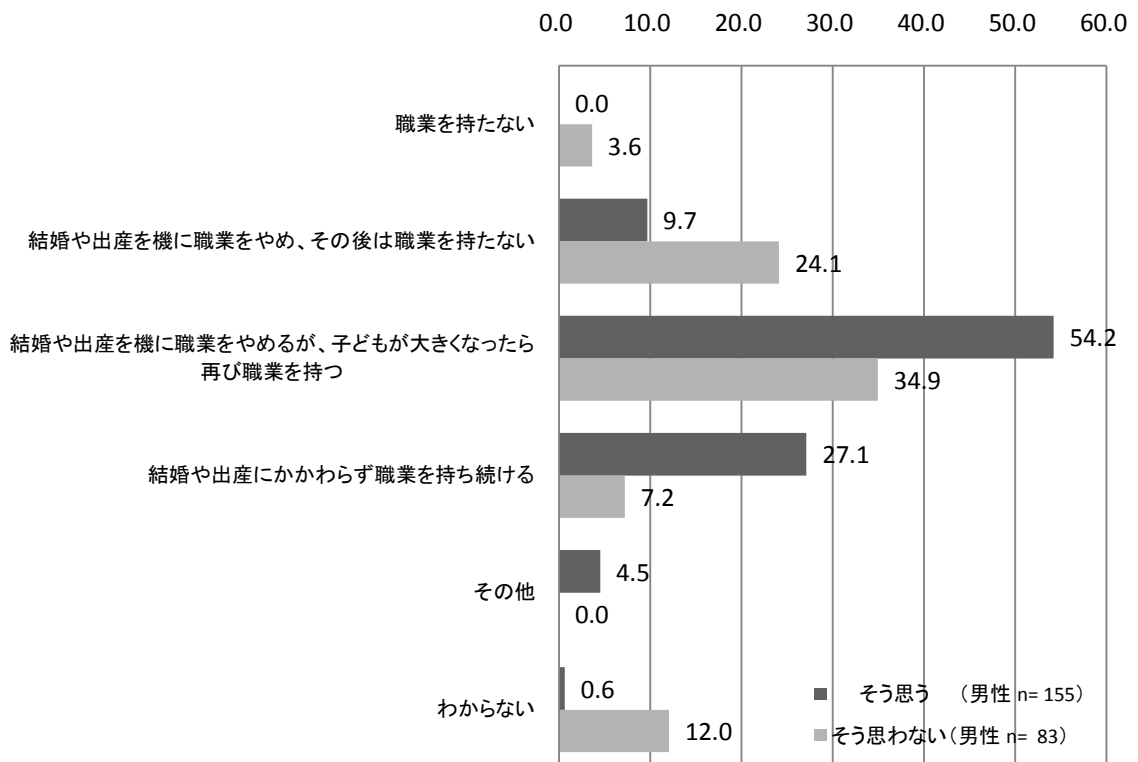
◆女性について

- (1) 家庭生活の考え方別に理想とする女性の働き方をみると、「男性のみが働いて世帯の生計を支えることは、負担が重い」について（そう思う計）を選択した人では、（そう思わない計）を選択した人よりも、「結婚や出産を機に職業をやめるが、子どもが大きくなったら再び職業を持つ」を選択する割合が、約20%低く、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」を理想とする女性の働き方を選択する割合が、約45%高くなっている。
- (2) 「女性が職業を持って、収入を得ることは重要だ」については、（そう思う計）で、（そう思わない計）よりも、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」を理想とする女性の働き方を選択する割合が、約50%高くなっている。
- (3) 「女性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」については、（そう思う計）で、（そう思わない計）よりも、「結婚や出産を機に職業をやめるが、子どもが大きくなったら再び職業を持つ」を選択する割合が、約2%低く、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」を選択する割合も約3%高くなっている。
- (4) 「男性が家事・育児などの家庭生活と仕事を両立することは難しい」については、（そう思う計）で、（そう思わない計）よりも、理想とする女性の働き方として「結婚や出産を機に職業をやめるが、子どもが大きくなったら再び職業を持つ」を選択する割合が、約7%高く、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける」を選択する割合が約8%低くなっている。

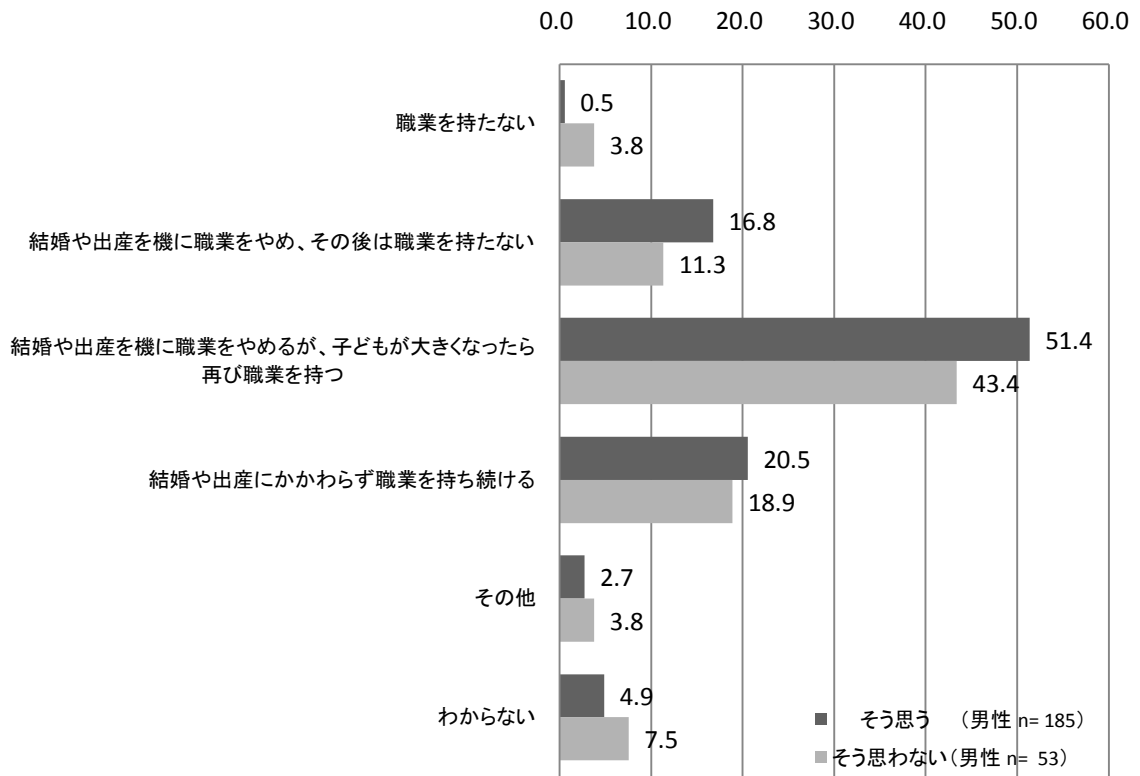
男性のみが働いて世帯の生計を支えるのは負担が重い（男性）



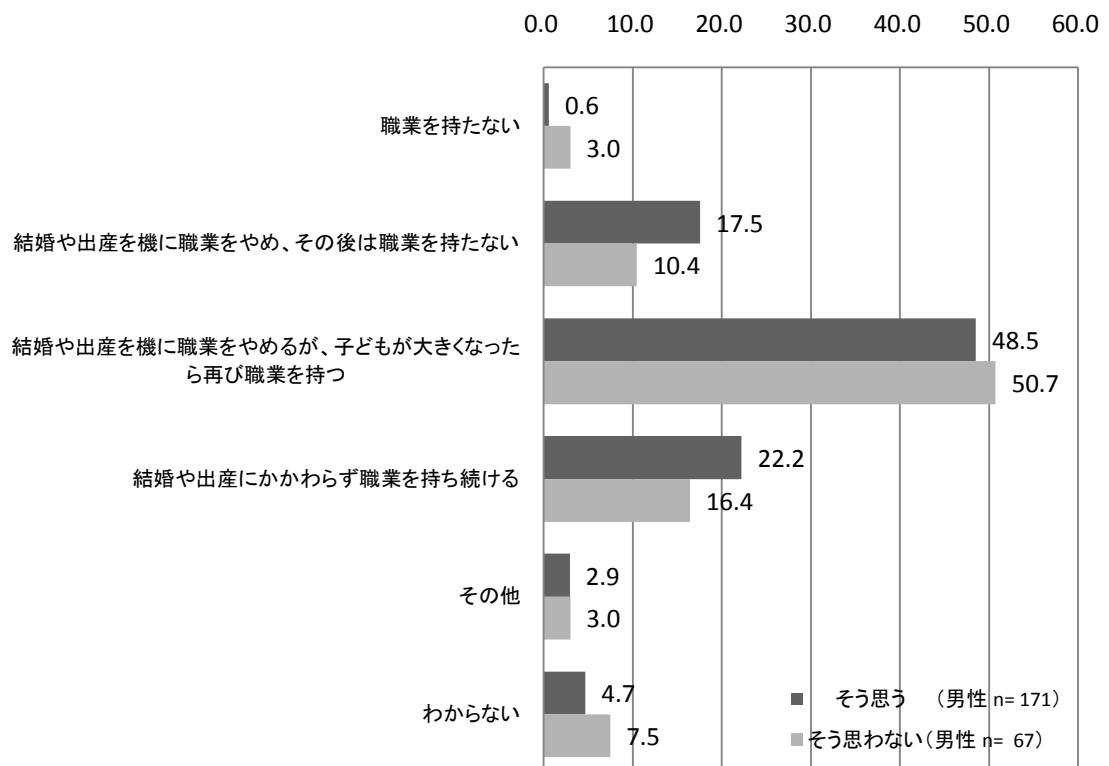
女性が職業を持って、収入を得ることは重要だ（男性）



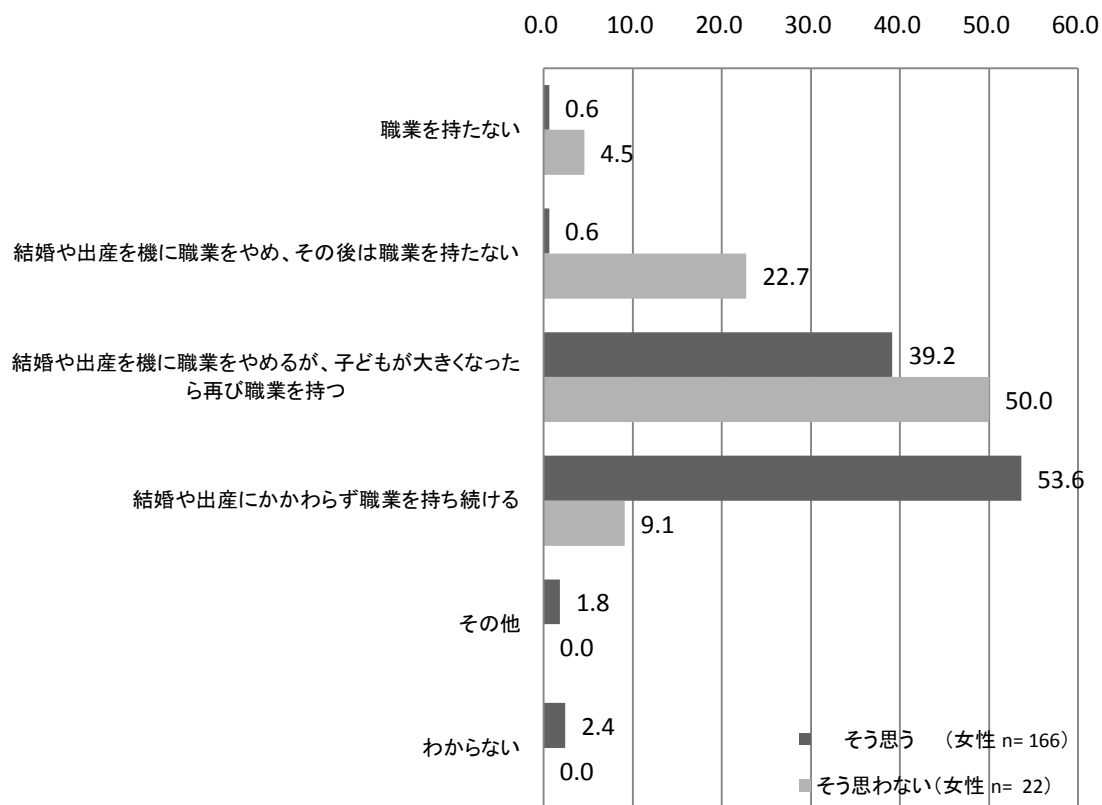
女性が家事・育児等の家庭生活と仕事を両立するのは難しい（男性）



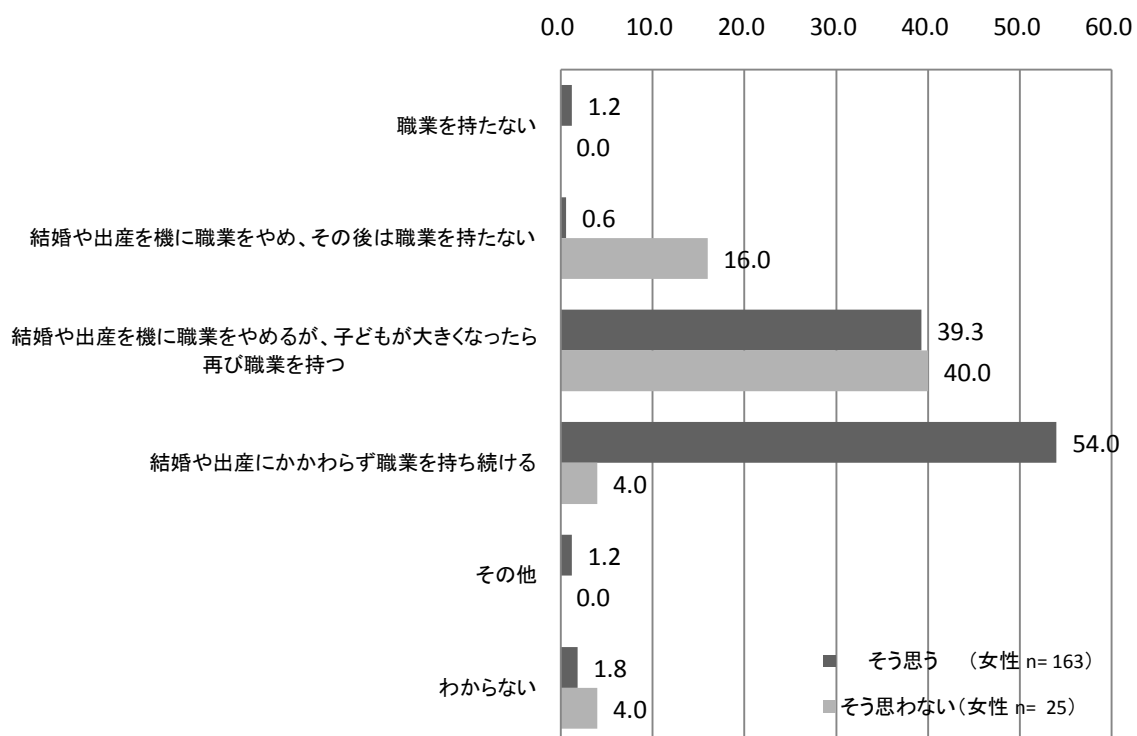
男性が家事・育児等の家庭生活と仕事を両立するのは難しい（男性）



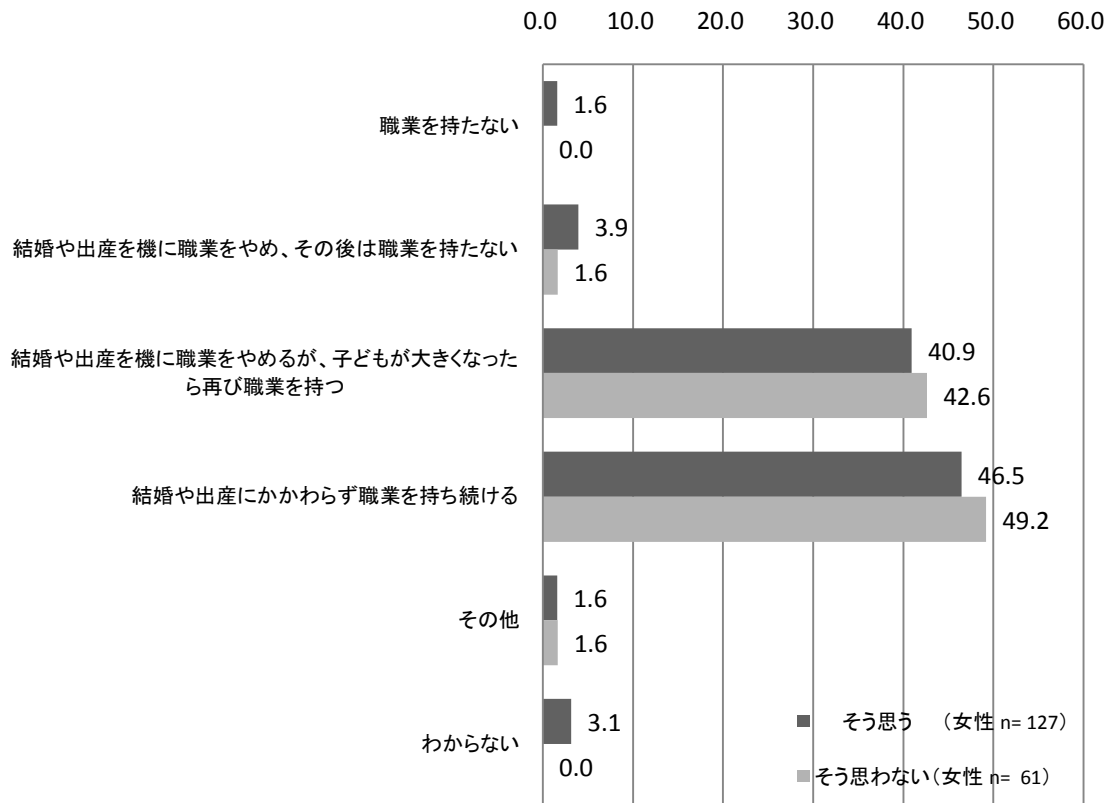
男性のみが働いて世帯の生計を支えるのは負担が重い（女性）



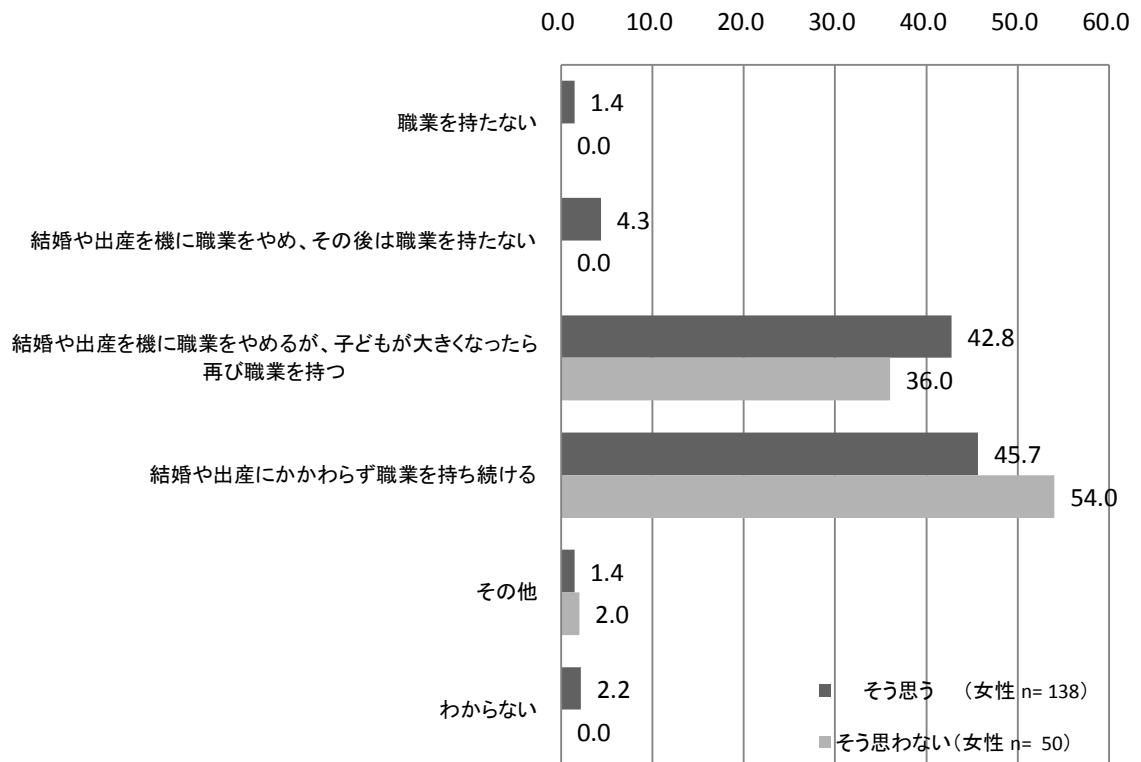
女性が職業を持って、収入を得ることは重要だ（女性）



女性が家事・育児等の家庭生活と仕事を両立するのは難しい（女性）



男性が家事・育児等の家庭生活と仕事を両立するのは難しい（女性）

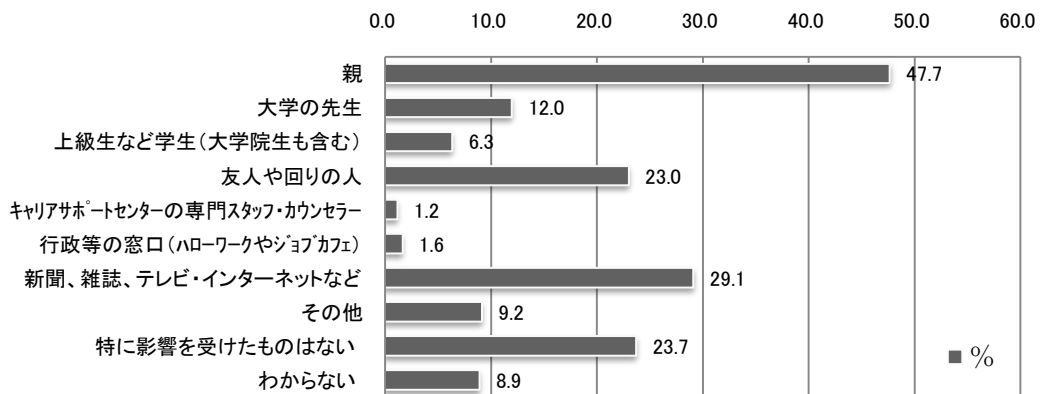


Q12 あなたが Q11 でご回答された理想と考えるライフコースに関する考えは、何から影響を受けましたか。(いくつでも)

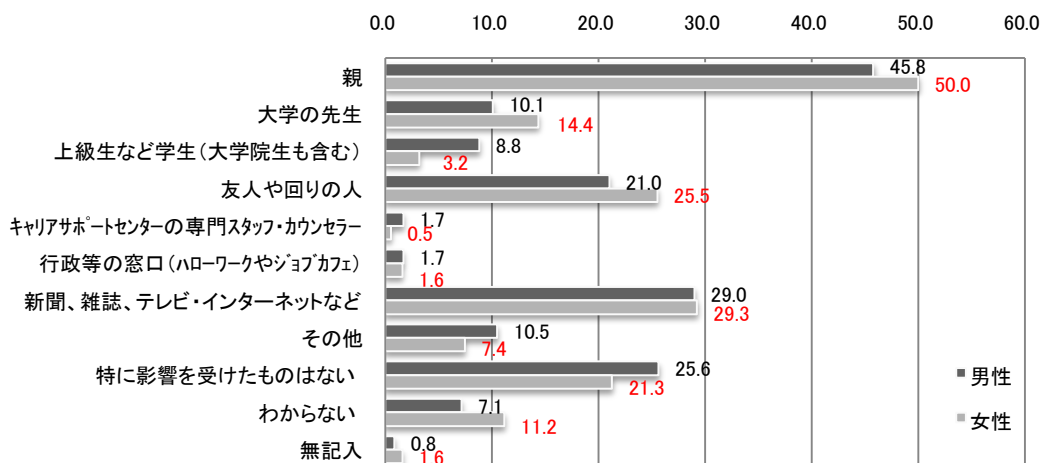
■ 半分が、「親」が女性の働き方の理想に影響を与えたと回答

- (1) 全体で見ると、女性の働き方の理想について影響を与えた相手として「親」と回答した人は47.7%と半数近くを占め、他の項目に比べ圧倒的に多かった。
- (2) 次いで、「新聞、雑誌、テレビ、インターネットなど」29.1%、「特に影響を受けたものはない」23.7%、「友人や回りの人」23.0%と、残りの項目と比べると2倍以上を占めている。比較的メディアの影響が大きいことがわかる。
- (3) 男女別にみると、男女による傾向の違いは小さい。女性の回答が男性を上回っていたのが「親」、「友人や回りの人」、「大学の先生」。男性の回答が女性を上回っていたのが「上級生など学生（大学院生も含む）」、「特に影響を受けたものはない」である。

Q12 理想とする考え方に影響を受けた要因 (全体)



Q12 理想とする考え方に影響を受けた要因 (男女別)

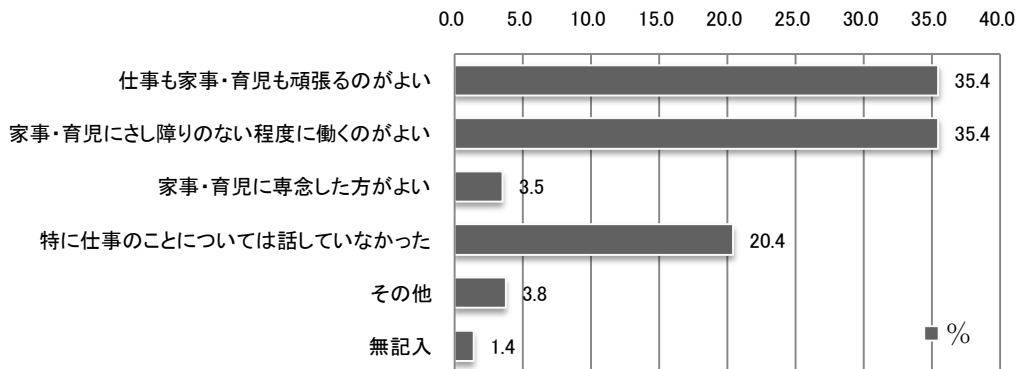


Q13 あなたの母親は「女性が働くこと」について、どのような考えを持っていると思いますか？（ひとつだけ）

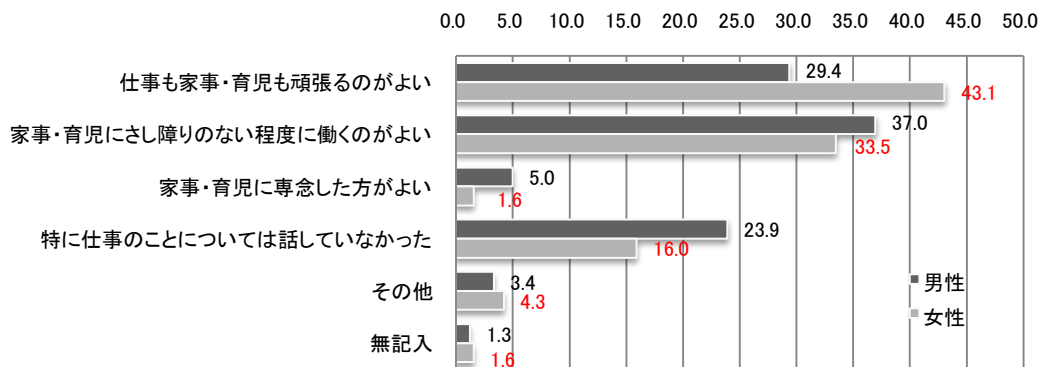
■「仕事も家事・育児も頑張るのがよい」及び「家事・育児に差しさわりのない程度に働くのがよい」がともに1/3以上

- (1) 全体でみると、回答者の母親の「女性が働くこと」についての考え方は、「仕事も家事・育児も頑張るのがよい」、「家事・育児に差しさわりのない程度に働くのがよい」がともに35.4%と同数で最も多い。
- (2) 次に、「特に仕事のことについては話していなかった」が20.4%で、仕事について話題になっていない家庭も少なくない。一方、「家事・育児に専念した方がよい」は3.5%とわずかである。
- (3) 男女別にみると、「仕事も家事・育児も頑張るのがよい」と母親が考えていると回答したのは、女性が男性の約1.5倍。反面、「特に仕事のことについては話していなかった」と回答したのは、男性が女性の約1.5倍。
- (4) 男子学生の母親は、女性は「家庭生活に差しさわりのない程度の働き方」、あるいは「家事専念」と考える率が高い。一方、女子学生の母親は、女性も「仕事も家庭生活も頑張る」と考える率が高い。

Q13 女性が働くことについての母親の考え方（全体）



Q13 女性が働くことについての母親の考え方（男女別）

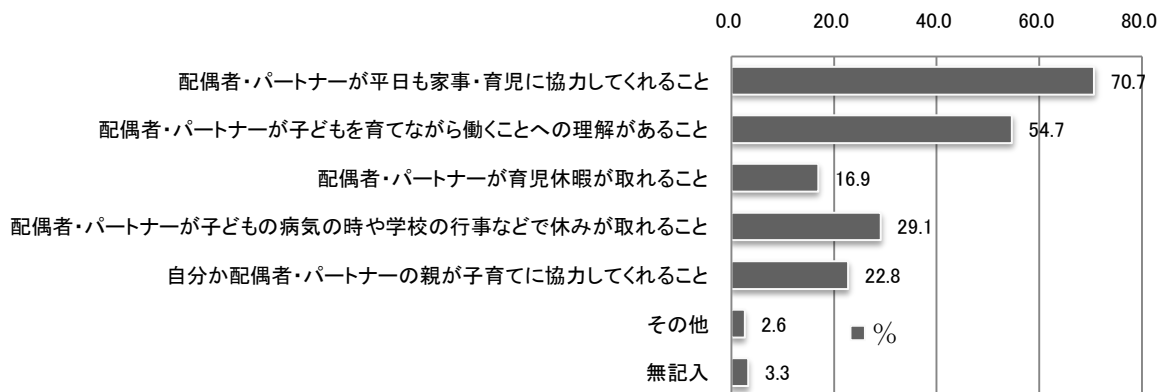


Q14 子育てしながら働く場合、家族の状況として何が必要だと思いますか？
(ふたつ選択)

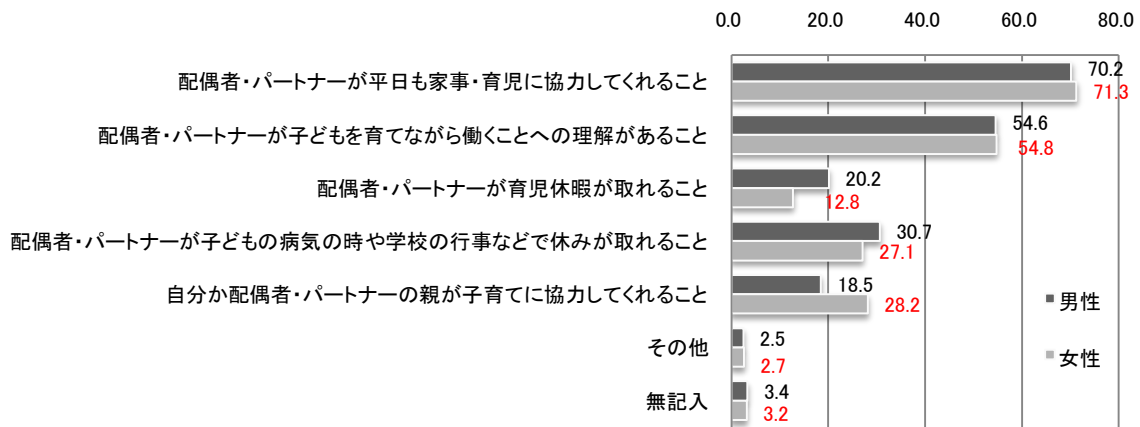
■ 「配偶者・パートナーが平日も家事・育児に協力してくれること」と約7割が回答

- (1) 全体で見ると、子育てしながら働くうえで、家族の状況として必要なことを聞いたところ、「配偶者・パートナーが平日も家事・育児に協力してくれること」が70.7%と最も多かった。次いで「配偶者・パートナーが子どもを育てながら働くことへの理解があること」が54.7%と多くなっている。
- (2) 男女別にみると、男女による傾向の違いは小さいが、男性は「配偶者・パートナーが育児休暇が取れること」の項目が女性よりも多く、女性は「自分か配偶者・パートナーの親が子育てに協力してくれること」が男性よりも多くなっている。女性の場合、夫の育児休業取得（12.8%）よりも、親が子育てに協力してくれること（28.2%）が多くなっている。
- (3) 希望する生活形態別で比較すると、大きな違いはない。「配偶者・パートナーが平日も家事・育児に協力してくれること」は、どの生活形態であっても約1/3が望んでいる。また、「親と同居・近居はしない」を選択している人は、他の生活形態を選択している人に比べると「配偶者・パートナーが子どもを育てながら働くことへの理解があること」と回答している割合が高い。「親と近居」を選択している人は、「配偶者・パートナーが子どもの病気の時や学校の行事などで休みが取れること」と回答している割合が高い。

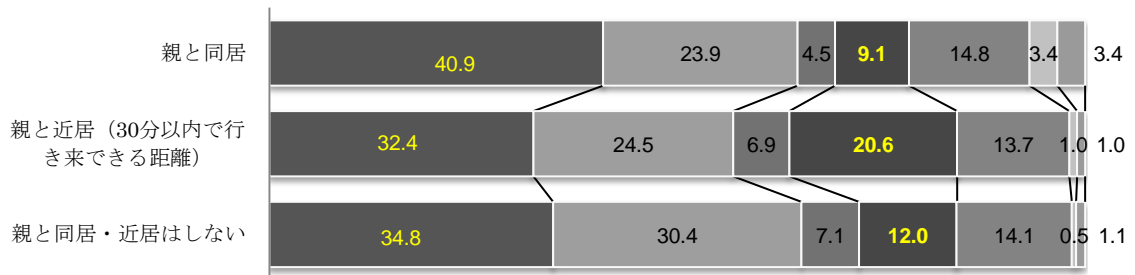
Q14 子育て中に必要な家族状況 (全体)



Q14 子育て中に必要な家族状況 (男女別)



Q14 子育て中に必要な家族状況 (希望する生活形態別)



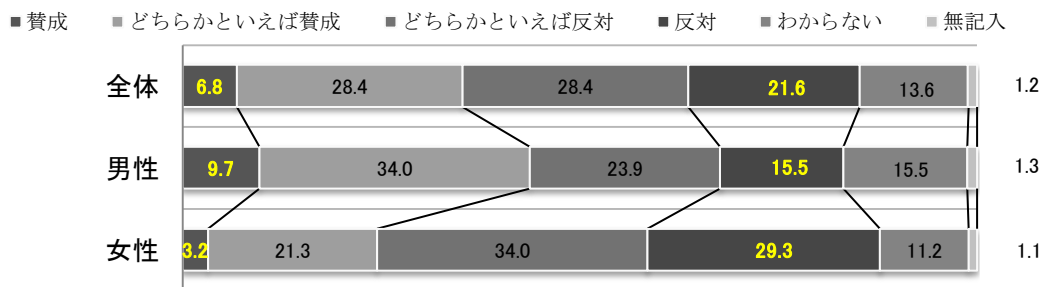
- 配偶者・パートナーが平日も家事・育児に協力してくれること
- 配偶者・パートナーが子どもを育てながら働くことへの理解があること
- 配偶者・パートナーが育児休暇が取れること
- 配偶者・パートナーが子どもの病気の時や学校の行事などで休みが取れること
- 自分が配偶者・パートナーの親が子育てに協力してくれること
- その他
- 無記入

Q15 あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方をどう思いますか。(ひとつだけ)

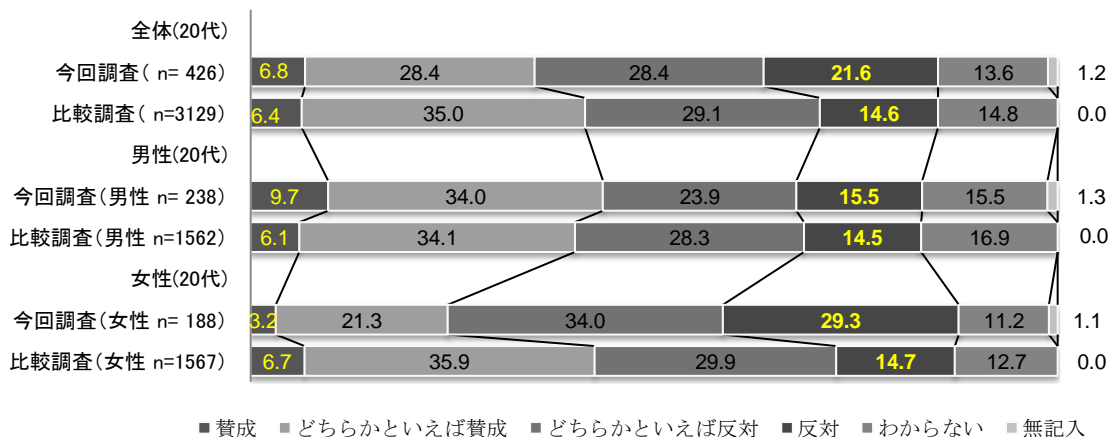
■「夫婦の固定的役割分担」について、半数が「反対」、「どちらかといえば反対」と回答

- (1) 全体で見ると、「夫は外で働き妻は家庭を守るべき」という夫婦の固定的な役割分担について、「反対」、「どちらかといえば反対」の合計は50.0%。一方、「賛成」、「どちらかといえば賛成」の合計は35.2%、「わからない」の回答が13.6%であった。
- (2) 男女別にみると、男女による傾向の違いは大きく、「反対」、「どちらかといえば反対」の合計をみると、女性が63.3%に対し、男性は39.4%と半数強。一方、「賛成」、「どちらかといえば賛成」の合計をみると、女性が24.5%に対し、男性43.7%と、約1.8倍となっている。また、「反対」のみをみると、男性15.5%に対し女性が29.3%と、男性の約2倍の女性が夫婦の固定的役割分担に反対している。
- (3) 「内閣府（21/3月）男女の能力発揮とライフプランニングに対する意識に関する調査（20代抜粋）」と比較すると、男性はほとんど変わらない。一方、女性で比較すると、「賛成」、「どちらか」というと賛成」を合わせると内閣府調査が42.6%に対し、今回調査は24.5%。「反対」「どちらか」というと反対」を合わせると内閣府調査が44.6%に対し、今回調査は63.3%と夫婦の固定的役割分担に反対の考え方が多かった。

Q15 性別役割分担意識 夫婦の固定的役割分担 (全体&男女別)



Q15 性別役割分担意識 夫婦の固定的役割分担 (比較)



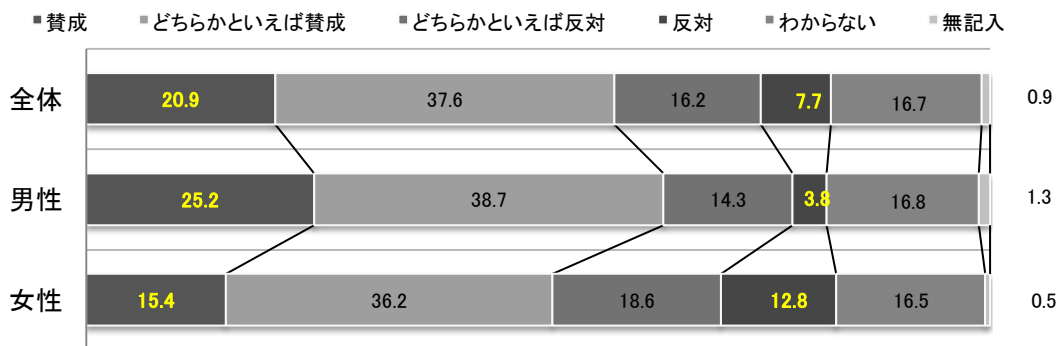
「男女の能力発揮とライフプランに対する意識調査」
(20代抜粋) 内閣府 (H21年3月) と比較

Q16 「母親は子どもが3歳になるまでは育児に専念すべき」という考え方についてどう思いますか。(ひとつだけ)

■ 「3歳児神話」について、約6割が「賛成」、「どちらかといえば賛成」と回答

- (1) 全体で見ると、「母親は子どもが3歳になるまでは育児に専念すべき」という3歳児神話について、「賛成」、「どちらかといえば賛成」の合計は58.5%。一方、「反対」、「どちらかといえば反対」の合計は23.9%、「わからない」の回答が16.7%であった。
- (2) 男女別にみると、「賛成」、「どちらかといえば賛成」の合計をみると、男性が63.9%に対し、女性が51.6%と、男性が約12ポイント高い。
- (3) 女性の回答者についてQ15と比較すると、固定的な夫婦の役割分担には反対であるが、3歳までは母親の手で育てるという「3歳児神話」に賛成している割合が高い。

Q16 性別役割分担意識 3歳児神話 (全体&男女別)



<参考>Q15 性別役割分担意識 夫婦の固定的役割分担 (全体&男女別)

